

フリースタイルで『家読』  
うちどく

我が家流の方法で豊かな感性を

大山きやらばく保育園

大山きやらばく保育園では、『人と関わりつながらう』大切な友達、保育士、家族、地域とつながり、一緒に楽しい時間を』を重点目標として保育に取り組んでいます。

家族とのつながりの一つに、家読の推進を挙げています。毎月9日の週を家読週間とし、子どもたち自身で選んだ絵本に加え、年齢に合ったおすすめ絵本を持ち帰ります。

今年度は、おすすめ絵本リストを載せた『うちどくカード』を作り、家読週間に家庭で読んだお気に入りの絵本と、家庭での様子を保護者の方に記入してもらっています。

家読カードには『こんとあき』を読んで実際に汽車に乗って鳥取砂丘に行きました。『いねかりやすみ』の本を、大きいおじいちゃんも含めて昔はこうだったなと言いなながら読みました。『じのないえほん』が文を作って読むと、とても楽しそうに何度も読んでと言ってくれました。』といった声が寄せられました。家族で同じ本を読み、本を通して知ったことを話したり体験したりし

ながら、その家ならではの方法で家族とつながり、楽しい時間を過ごすことで、子どもの豊かな感性が育っていきます。本の楽しさと一緒に、温かな思いが、子どもの心に深く降り積もっていく体験をこの時期に沢山してほしいと願っています。

うちどくカード



きやらばくたろう



▲「おもしろそう。今日はこれ借りようかな〜」

コロナを吹き飛ばせ！

大山町女性団体連絡協議会主催  
第15回女性レクリエーション大会

11月13日、中山農業者トレーニングセンターで標記大会が2年ぶりに開かれ、約80人が参加しました。昨年度はコロナ禍で実施できなかったこともあり、久しぶりに仲間が集いました。

今回は参加者数を半分以下にし、時間を短縮するなどの工夫をしました。

パン食い競争、玉入れなどのおなじみの競技のあとは、今回の目玉プログラム「お話玉手箱」です。各地区でテーマに沿った仮装をし、パレードで会場を盛り上げました。寒い時期でしたが、体育館の中は参加者の熱気でいっぱいになりました。



▲桃太郎とアマビエ一行がコロナをやっつけます

成人講座(名和公民館)

『國野愛蘭ギャラリートーク』

11月14日、名和公民館で町内の画家國野愛蘭さんによる『ギャラリートーク』を行い、43作品を観ながら絵にかける思いをお話いただきました。

11月6日から28日まで、國野さんの日本画展を行い、それに併せて多くの皆さんに絵のすばらしさをもっと伝えたいとギャラリートークを企画しました。

作品一つひとつの秘話を知り、絵に賭ける情熱を感じるひと時でした。会を終えた後、皆さんが再度絵を鑑賞され、その奥深さに魅了されていました。



▲國野愛蘭さん(左)の話を熱心に聞き、質問をする参加者